

第3回

上野地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：平成30年12月25日（火）

13：01～15：00

場所：台東区役所10階 1001会議室

【公開用】

午後 1 時 0 1 分 開会

1 開 会

2 座長挨拶

3 議 事

(1) 第 2 回ビジョン策定委員会の振り返りについて

○座長 それでは早速、時間も限られておりますので、お手元の議事次第に従いまして進めてまいりたいと思います。

まず、議事の 1 番は、前回の委員会の振り返りでございます。事務局から説明をよろしくをお願いします。

<事務局より資料 1 について説明>

○座長 前回の議論の振り返りでございますが、何か特に御質問があればお受けしたいと思いますが。——よろしいでしょうか。またきょう改めて御意見をいただければ反映されますので、どうぞよろしく御理解をいただきたいと思います。

(2) まちづくり部会における検討状況について

○座長 それでは続いて、これまでの検討状況について御説明いただこうと思います。

全体会合の下に 2 つの部会をつくって進めてまいりました。まちづくり部会が動き出しましたので、まず、まちづくり部会の状況について、部会長からお願いしたいと思います。

<部会長より資料 2 について説明>

○座長 まちづくり部会でこれまで 3 回議論していただいた内容の御紹介でしたが、何か

御質問があればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。——よろしいでしょうか。もう1つ部会がございまして、こちらとあわせて最後に全体のビジョンの議論をしていただきますので、先の議題に進みたいと思います。

(3) 基盤整備部会における検討状況について

○座長 もう1つは基盤整備部会です。これは副座長に部会長をお願いしております。よろしくお願ひします。

<副座長より資料3-1・3-2について説明>

○座長 4月にやっていただいた交通量調査の少し詳しい分析ができたということで今日は報告をいただいて、これに加えて今検討されている方向性についての説明がございました。何か御質問、御意見があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。——特によろしいでしょうか。交通量は大体皆さんが思っている感覚と合っているということですかね。

○委員 2枚目の右上の図なのですが、「乗用車 小型貨物 大型貨物」と書いてあるのですが、大型貨物の定義は何なのでしょう。大きなトラックが入っているようにも思えないのですけれども。

○座長 調査された方がいらっしゃれば。

○事務局 少々お待ちください。

○委員 では、ついでにあともう1点ですが、中央通りが南北交通を担っているということのだけれども、春日通りのほうのキャパの余裕がどれくらいあるかというのを、もしわかれば教えていただきたいと思いますが。

○座長 今日は交通量そのものしか出ていませんけれども、容量との関係で混雑度はどういう状況かというのわかりますか。

○事務局 少しお時間をいただいて、後ほど御回答さしあげます。

○座長 では、少し調べていただいて。

大型貨物は確かにちょっと多過ぎるかもわかりませんね。ベンダーの車なども入っているのかな。物流に関してはもう少しデータがあるのでしょうか。

○事務局 はい。

○座長 いわゆる宅急便的な荷物と、個別のお店に個別に運んでいらっしゃるものがありますので、コントロールするにも、比較的そういう専門業者の方は協力していただけるのですが、個別に運んでいらっしゃる方はその都度その都度の都合なので、なかなかうまくいかないかも知れません。

○委員 少し関連するのですが、歩行者の回遊行動調査においてアンケートをとっていらっしゃるとお伺いしたのですが、AとFが一番GPSロガーの移動軌跡が多いわけですが、来街目的と軌跡との関係等、どんなアンケートをとられて、どんな結果だったということはすごく興味深いのですが、教えていただければと思います。

○座長 歩行者の方に対するアンケート結果はないのですかということですね。

今3つ御質問が出ました。順番にやりますので、お待ちください。

○事務局 お待たせいたしました。

まず、アンケートの調査項目なのですが、例えば目的、立ち寄り場所、どうやって上野に来て上野からどうやってお帰りになるか、時間帯、消費金額、それから、当然のことながら基礎的な年齢ですとか性別、職業といった属性についてもお尋ねしております。日本の方、外国の方もできる範囲で聞いているはずなのですが、今手元にその資料がないのですが、大体そのような感じでございます。

○座長 結果は手元にありますか。

○事務局 はい、ございます。

○座長 特にこれがお聞きになりたいというのがあれば。

もう一度、どんなアンケート概要か言っていただけますか。

○事務局 例えば来訪の目的、どういう場所に立ち寄られたか、交通機関、時間帯、滞在時間、年齢だとか性別だとかの基本的な属性でございます。

○委員 全部興味がありますけれども、その集計結果を資料として拝見したい。

○事務局 今お配りはしていないのですが、例えば今このような状況で取りまとめがありますので、何らかの形で御提供することは可能でございます。

○座長 では、皆さんにぜひ見ていただけるように提供していただきたいと思います。

○事務局 わかりました。

○委員 アンケートの今の御質問の中で私が一番興味深かったのは、外国人の方にとってアメ横が中心の場所になっていると気づきまして、上野の山のほうが思ったより少ないの

です。それがすごく意外だった。これは、一つはそのままどこかへ行ってしまう人、例えば谷中のほうへ行ってしまった人はとられていないのでわかりませんが、かなりアメ横に来られているという印象を受けました。

○座長 では、後ほどで結構ですので、ぜひ皆さんにアンケートの分析がわかるようなものをお届けいただきたいと思います。

○事務局 承知いたしました。

○座長 その前の御質問のほうはわかりましたか。

○事務局 もう一つ、先ほどの荷さばきの自動車の分類ですけれども、「大型」と記述しておりますのは普通貨物車ですので、ナンバーでいいますと1や8や9をつけたクラスです。「小型」と言っているのは小型貨物車で、ナンバーが4とか3です。非常に小さい2t車といったものを「小型」、それ以外のものを「大型」と称しているようでございます。

あと、春日通りの交通量がどのような状況かというお尋ねを頂戴したのですが、資料3-1でございしますが、2枚目の「自動車交通量調査結果」というところをごらんいただきますと、例えば中央通りとの交差点でいくと「80台」「93台」「73台」「77台」と書いてありますが、今現在私どものほうで持っております資料がこの程度のものでございますので、客観的な評価はまだできていない状況でございます。申し訳ございません。

○座長 幹線道路のほうは道路交通の全体の調査でありますから、そちらでちゃんと整理していただければと思います。

○事務局 そうですね。ネットワークとしていろいろと捉えてみたいと思います。

○座長 よろしいでしょうか。結構大型が多いのですね。

ほかには何か御質問はございますか。

後でいただければいいのですが、滞在時間は皆さんどのくらいだとお答えになっていきますか。

○事務局 滞在時間は、これは約780人の回答なのですが、そのうちの半数が「2～4時間」という回答をしています。

○座長 2～4という数字の幅で回答をとっているわけですね。

○事務局 いえ。短い方ですと1時間未満という方もいらっしゃいますし。

○座長 実数でとっているのですか。

○事務局 はい。8時間以上という方も。ですから、「1時間未満」、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」……という感じで全てとっていきまして、「8時間以上」まで。

○座長 ほかにはよろしいでしょうか。特に御質問はありませんか。

(4) ビジョンの骨子イメージについて

○座長 では、引き続き部会ではまたこうしたことを詳細に詰めていただくわけですが、両部会で議論されてきたことをまとめていく全体のイメージについて今日は共有したいと思います。後ほど出てまいります、きょうは今年度3回目でございますが、来年度に向けてビジョンを策定していくわけで、その骨子になるものを御検討いただきたいということでございますので、資料4の説明をお願いいたします。

<事務局より資料4・参考資料1について説明>

○座長 今のページの右のほうは説明しなくてよろしいのですか。

○事務局 こちらは、先ほどの資料4の1枚目のところで記述しているものとほぼ同じでございますので、説明は割愛させていただきます。

○座長 よろしいのですか。結構具体的にいろいろな言葉が入っていますが。

○事務局 もう少し検討させていただきますので。

○座長 はい。

今日はこの骨子イメージをこの場で磨いていただくことが一番大きな役割かと思っています。前回の2回目ときのペーパーが別紙でついていますが、それと比較していただくと、一番目につくのは将来像のところで、従来は「文化・芸術立国」のような、かなり文化・芸術というものが高いところにあった感がありますが、そういう別世界ではなくて、東京・世界それぞれがつながっているまちの話もしっかりと書こうではないかということで、その部分が少し膨らんでいて、「まち」と「杜」という2つのキーワードで、今回は上野がそれを重ねてつないでいくのだということで、大きな上野のイメージアップにつながるのだというふうにいけないかと。無限成長とか無限の輪廻があるような絵がありましたけれども、多くの人に来ていただいて、さまざまな文化を感じていただいて、また新しい粋(すい)とか粋(いき)をつくり出していく上野にしていきたいというのが、2040年代頃の、これから20年後くらいの上野のビジョンとしてどうかというのが、各部会から来た言葉を少し利用しながら事務局でつくったということかと思っています。きょうはこ

れをたたいていただいて、さらに良いものにしていきたいと思います。いかがでしょうか。御質問も含めて御発言いただきたいと思います。

では最初に、部会長をやっている副座長から、さらに何か補足があればいただきますが。

○副座長 部会の中ではもう少し具体的な議論を進めておりますが、何となく行き先がこれでいいのかという不安がずっとついて歩いていますので、まずは今日こういった骨子イメージに対し御意見をいただきたいと、部会の立場からもそのように思っています。

今、座長から振られた内容とずれる気もするのですが、基盤整備部会をやらせていただいていますけれども、今御説明にあった資料4のようなものもずっと並行して議論させていただいています。そうすると、前回の6月のものが一番後ろにくっついていて、今御説明いただいた資料4があるのですが、ずっと見ている私からは随分内容が充実してきたなと思う反面、ぱっと見た人がわかるのだろうかという域に達しているなという感じがありまして、我々の頭の中は煮詰まってきたのでこれでいいのですが、今日割とぱっと見た方もいらっちゃって、その御注意をぜひいただきたいというお願いを今ここで思いつきました。

○座長 それでは、どうぞ皆様から積極的に御質問、御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 「粋 (すい)」とか「粋 (いき)」というのが今回初めて出てきて、意味がよくわからないというのがあって、辞書的には「粋 (いき)」というのは「気持ちや身なりのさっぱりとした、あか抜けていて、色気を持っていること」と。どういうまちのイメージかという、要するに「粋 (すい)」と「粋 (いき)」という言葉としてのイメージがまずあるのか、それともその意味として把握しているのか、曖昧過ぎて、それぞれ持ちようというか気持ちで全部変わってってしまう言葉でまず固めようというところ。要するに、ここだと「文化資源 (世界の粋 (すい))」ということは文化資源が世界の粋 (すい) という意味なのか、「歴史資源 (東京の粋 (いき))」とか、使い方がかなり曖昧なので、今後、例えばまちのイメージとかをつくっていくにあたって、どうとでもとれる話という前提でやっていくのか、どういう意味でまちづくり部会で進めていくのかというのがわからないというのが1点です。

もう一つ、例えばものづくり技術が新しい世代に伝えられるとか、それ自体は非常に良いことだと思うのですが、これだと上野地域で実際に扇子などをつくっているような、伝

続工芸がつくられてそれが伝承されていくといいねというようなイメージを持つのですが、では実際問題としてどの程度そういう産業的な人たちが上野の一丁目から七丁目にいるのか。だから、イメージとしてこういうことがあったら良いということと、実際上の起こることという、イメージ先行過ぎるのではないか、もう少し実際に即して考えていければいいのかなと思います。

最後に、「取組みの方向性のイメージ図」の左側で、杜とまちというところで、現状で「武家文化」「町人文化」、将来像で「武家文化」「町人文化」という対比で出ているのだけれども、明治から150年たって、まだ町人・武家なのかというところがあって、実際問題としても、美術館群とか藝大さんとか、杜がすなわち武家みたいなイメージというか、実際に即していないというか、お城があるわけでもないわけだし、もちろんまちがまちなのは当然なのだけれども、その対比を具体的にどのように将来イメージとしてつかんでいくのかというところがわからない。最初だからいいのですけれども、進めるにあたってどうとでもとれてしまうというところがあって、少し気になったところでもあります。

○座長 いかがでしょうか。事務局から何かお答えになりますか。

○事務局 幾つか御指摘をいただいたのですが、まず「粋（すい）」と「粋（いき）」でございますが、例えば「世界の粋（すい）」は、世界の中でも非常に際立っている文化・芸術の資源といったものを言葉としてあらわしています。それをより一層高めていく必要があるのではないかという議論があると思います。もう一方の「粋（いき）」ですが、これはひょっとすると、これまでの上野が積み重ねてきた歴史がそう言わせるのかもしれないですね。上品なまちのイメージというか、東京を代表するような粋（いき）な暮らし方といったものがこれからも上野の将来像として良いのではないかとということでございます。

もう一つ、先ほど、ものづくり技術のことを御指摘いただいたのですが、例えば上野の中での具体的な人数とかは今は持ち合わせがないのですが、少し調べてみますが、もともと「まち」というのは、上野地区のまちづくりビジョンの範囲を最初のほうでお示しして、大分広い範囲でございます。例えば北のほうは鶯谷のあたりから、南は秋葉原の周辺まで、東側は竹町地区、西側は当然区境もあろうかと思いますが、区境を越えた文京区さんのほうの資源といったさまざまな中に恐らく点在している技術。もちろんジュエリーのこともありまじょうし、指物であったり、金器・銀器であったりというような、これは今私が思いついているイメージなので少しずれているかもしれないのですが、そのようなさまざまな、例えば伝統工芸と言われるようなものでもそのようなものがある。また、新たにこれ

からそういったものづくりの技術、例えばデザイナーズビレッジで今いろいろと新たなクリエイターやデザイナーの方々が育つことによって、そういった方々が行うものづくりの技術がこの中にだんだん加わっていくのではないかと考えています。

それから、現実在即してということですが、まちづくりビジョンの目的のところをごらんいただきたいのですが、資料4の骨子イメージ（案）の左上です。「まちづくりを推進するため、2040年代頃の将来像と取組みの方向性を示す」ということで、むしろこのようなことでさまざまな方々を誘導したいということを私どものほうでは考えていますので、現実だけではなくて将来のまちのイメージもつくりたいということをやっているところでございます。

それと、最後に御指摘いただいた武家文化と町人文化というのは確かに御指摘のとおりで、今さら将来の中でそういうものをというのは私も感じないわけではないのですが、それだけに、やはりこれまで培ってきた上野の歴史といったものがこのような言葉で言いあらわされるのかもしれませんが、少し対立しているようなイメージも受けますので、この部分については研究を重ねたいと思います。

長くなりましたが、以上でございます。

○座長 議論を重ねて皆さんのいろいろな意見を伺う中でまた新しいアイデアも出てきますので、最初は幅広く皆さんから意見をいただいて、また振り返っていきたくと思いますので、ほかの皆様からもぜひ御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 一番最後に別添資料になっている第2回ビジョン策定委員会の資料の「文化芸術立国」を先導し日本と世界をつなぐ文化・芸術の殿堂」に比べますと、「粹（すい）」というのは要するに、いわゆる「純粹」だとか「すぐれているもの」だとか「えり抜き」だとか「あか抜けている」とか、そういう「すばらしいもの」という意味で使って、一方で「粹（いき）」というのをまち側で、人情の機微だとか、どちらかというとな下世話なものも含めた「粹（いき）」というように使い分けているのだと思うのですが、私が一番考えるのは、この将来像をぱっと見たときに、自分が町場の人間というか、まちづくりの将来に対して、そういう役職の中で「これだ」というものが明確に描けるかということ、まだもう少しちょっとそぎ落としていただかないと、今このようにてんこ盛りになっているのは良いのですが、これを一つ一つとったときに、骨子がぶれないというか、残るというか、そういう力強いテーマがあって、そこからいろいろなイメージ、いろいろな人がいろいろな関わりの中で、それぞれの役割の中で、これいいね、あれいいねというアイデアが噴出する

ようなものが今すごく大事だと思っていて、それからするとまだ私にとってはよそ行きなのかなというか、まだ粋（いき）過ぎるのかなというか粋（すい）過ぎるのかよくわかりませんが、そんな感じがしています。

先ほどの質問とも関連するのですが、アンケートの来街目的の中で少し聞いたら、実際、何らかの目的を持たないで来る人が多いという話です。まさにこれからそういう、目的がない、だけどいる、本人もなぜいるかわからないまちという。目的があるときには携帯なりスマホをのぞけば、何をしようが、映画を見ようが物を買おうが、必要なことは瞬時に手に入る時代の中であって、それでは物足りない人が、やっぱり空気を吸おう、外を見よう、空を見ようといって出てきた人たちが、居心地が良くて、安全で、楽しくて、何か発見があり、出会いがありというのしか、私はまちの将来の役割のイメージがつかないのです。それ以外の役割は何があるのかと。まちそのものが皆さんの時代の要請の中で機能として残すのはどこかということを確認にしないと、生き残りもできない。先ほどの交通量調査でもそうですけれども、前回でも上野駅は定期客ではない乗降客の割合が高いという意味では、何かで来ているのですよね。もちろん、東京の大開発の西側のほうを見れば、ますます業務棟なりショッピングセンターが充実していく中で、目的を持ってくるというところは充実するわけで、そこには会社があり、そこにミーティングなりで行くわけですが、何の用事もないのに来るまちというのが目指すべき、「何かそこに」というのがヒントになるかと思っていて、それとこの「粋（すい）」と「粋（いき）」というものをどうやって結びつけたら良いのか。それをまたまちとしてどうする、山としてどうする、つなげてどうするというところが明確になるようなものをここでつくるのが我々の仕事なのかと、そんなことを今考えています。

○座長 ありがとうございます。確かに、前のものよりはかなりまちに近づいている感じが出てきていますが、最後は「文化・芸術の殿堂」だから、まだちょっとかたい感じがします。

○委員 あまり「殿堂」という言葉がね。「殿堂」で来る人はいないと思うので。

○座長 そういう、何かまちの新しいあり方みたいなものがうまく表現できるといいねということだと思うのですが。

あとは、具体的に何をやるのかという話がうまくつながっていなければいけないというのは先ほどの御指摘のとおりで、そこはもう一段深めていく必要がありますが、まず将来どんなまちであるべきなのか、今のまちの持っているものをどう活かすべきなのかという

ことで、引き続きもう少し御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。地元の方からぜひ、「こんなもんじゃねえ」とか言っていただけると。考え直さなければいけないので。

○委員 先ほど、最近の外国人のお客様はアメ横ばかり行っているというお話がございましたが、実はアメ横に直接ダイレクトに入ってしまうのは中国あるいは東南アジアの方々です。そうではない方々、ヨーロッパ系あるいはアメリカ系の方々はどこに行くのかというと、谷中の墓地なのだそうです。日本人のスピリチュアルを感じるということで、谷中の墓地に入って、あの辺の寺社を廻ってみて、最終的には東京国立博物館に行く。ここ1年、観光連盟の執行部会と言われている会議の中でさんざん言われているのは、今までああいふ博物館とか展示場は特別展をやって人を集めて「うちが勝った」みたいな言い方をしていたのですが、実は最近、600円とか700円の一般入場の方がものすごく増えているのだそうです。要するに、特別展に行かないで、日本の伝統的な能衣装を見たり、歌舞伎の衣装を見たりという方々が増えている。すなわち、我々ではないのです。欧米の方々がたくさん入っているということなのです。ですから、その辺で随分、来ているお客さんが変わってきている。何も目的がなくて来ているという話が委員さんからありましたが、実は彼らは調べるだけ調べて、究極に調べてやってきています。それで東京国立博物館に入る、あるいは科学博物館に入るということをやっています。ですから、彼らもほとんどの場合、目的を持って来ている。中国の方々は、アメ横の喧騒を、向こうの旅行の本には「エキサイティングなまち」と書かれているそうですが、エキサイティングさを求めて、実はあそこを通るだけなのですが、アメ横で買い物をするわけではないと言うと隣に座っている委員さんは怒りますが、買い物をするわけではなく通っているだけという方々が多い。

○委員 買い物しているから大丈夫だよ。

○委員 買い物はしているそうです。

それと同時に、まちなかの高貴な文化と先ほど事務局が言われていたけれども、もともとあそこに暮らしていた連中というのは御徒（おかち）でございます。御徒というのは、何かあったら先頭に立って殿様をお守りする下級武士です。下級武士の末孫が我々でございますので、そんなに偉そうなことはないのです。それこそ秋葉原のほうに行くと、神田あたりは薬師といって薬師問屋が多いのですけれども、薬を持って江戸城に駆けつける方たち、要するに昔のお医者さんたちが住んでいたわけなのですけれども、だんだん近づくに

つれて高級官僚になっていくわけですが、我々は御徒でございます。

以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

○委員 せっかくですから、一言。

いろいろお話をお聞きしましてメモをとっていたのですが、イメージアップだとか感じたことはいろいろあるのですが、上野の場合は全体で見まして、やはり資源があるからこそ無限成長にもつながると。他の地域で再開発とかをしているところは、現状として何も無いところからの成長はないと私は思いました。

それから、そういったことをより磨いてこそ上野のあり方、人の往来というか流れを優先するということですね。アメ横については、今言われたように外国人の方が大勢来ていて、6割くらいは外国人ではないかと。私は毎日おりますが、そのように変わってきました、食べ歩きだとかそういったことで紹介されるテレビのイメージが悪いと思いますが、その中で、変えられない、変えてはならない、間違った方向に行かないようにということは考えております。もともとは闇市から発展して、ほとんどが本当は物販のまちだったのです。対面販売で下町の一番の良さを売っている。今、QRコードでスマホ決済みたいなことを言われて、アメ横はどうすればいいんだという話になっていますけれども。

せっかく時間があるから言いますが、例えばお客さんが歳末にカニとかイクラとかを買って、大体3,500円くらい買ったとします。そうしたら、5,000円札を出すと普通は1,500円返しますが、おつりは返しません。品物で返す。これがアメ横商法で、お客さんは大分得したなという感じで帰るのですが、うちに帰ったら冷蔵庫に入らない、せっかく買ったカニが腐っちゃったと。これが下町の良さとか、江戸の台所アメ横の良さで、決してお客さんは怒らないですね。人情味のあるそういう接し方が。今私は一番勉強しているのですが、なかなかこういうインスタグラムだ、QRだ、ポイントだとか、ポイントはつきませんが、より安く買えるのではないかといい良さがあって、アメ横は人気があると思います。

そういった点でいうと、私が今一番感じているのは、2020年という基準、それから来年元号も変わりますし、来年19年になりますとテレビでも『西郷どん』から『いだてん』に変わり、いよいよ皆さんがオリンピックに向けてということで、JRの公園口改札を直すとか、パンダを今のところから西園の弁天門側に移す、これは2020年2月にオープンする。そういったことでいろいろ、2020年への同調機運というのは高まってい

る中、上野の存在を明確にするためには、持っている資源も含めて、山の魅力、まちの魅力、そして駅を中心とした、三位一体の山・駅・まちという回遊で魅力を創出するというか、そういった点で行けるワンストップの場所なんだということを強調したいと我々は思っていますし、決してアメ横が変だというわけではございませんが、今の時代に逆行しているように思われますが、それはそれとして、他にはないナンバーワンの商店街だと思っております。以上です。

○座長 ありがとうございます。今の、まちと杜と駅、3つ重なるところ全部が上野だという話だと思うのですが、それを一言でうまくぱっとつかまえられると良いのですが。今はまだ「世界の粹（すい）・東京の粹（いき）」になっていますが、重なったところで「これなーんだ？」と見せなければいけないのですが、もう一息ですね。頑張りましょう。ほかにはいかがでしょう。

○委員 上野ということですが、私どもは東上野なので、上野さんのように商店街というのではないわけです。何があるかという、製造業者、卸業者。いろいろな形でいろいろな種類の方々が工場を持ってつくったり、あるいは卸したりということなのです。

私もずっと長いこと見ていまして、まちが大分変わってきたなど。今後どういう具合に変わるだろうという関心は持っているわけです。どういう具合に変わってきたかという、まず、高層マンションが何十という形でできようとしているわけです。それと、安いホテルができつつあるわけです。先ほど外人さんの話が出ましたが、外国の方が非常に多くなりました。私も十何年、町会長をやっていますけれども、全然当時と違います。言うなれば、もともと住んでいた二丁目町会の方は外へ出るような形になって、外国の方々が非常に多くなってきたということ。その外国の方なのですが、大変多くいらっしゃるの結構なことなのですが、私の連合町会の中をたまに見て歩きますと、公園も幾つかあるわけですが、非常にマナーが悪い。これで将来、東上野がどういう形になっていくかということをお心配しているわけです。ですから、今日いろいろお話を聞いていますけれども、そういった意味でまちづくりに御協力いただければと思います。

○座長 粹な生活をちゃんとお伝えしなければいけない。

他の委員さんは何か御発言はありますか。

○委員 今日はございません。

○座長 地元の皆さんから、まちの変化あるいはまちがこういうふうにあったら良いなというお話があって、先生方からも少しアドバイスをいただければと思うのですが、いかが

でしょうか。

○委員 今いろいろお聞きしていて、非常に納得しました。委員さんの言われている、ちょっと広過ぎるのではないか、てんこ盛りというか、私も確かにそんな感じがしていて、ものづくりというのはもう少し東のほうではないかなと思ったりするので、「上野地区」と言っているのであれば、本当にここではどういう方向性かということをもう少し絞ったほうがいいのではないかと私も思いました。

少し本当に個人的な話で恐縮なのですが、うちのチーズフォンデュの鍋が壊れまして、うちの家内がネットで探していたのです。それで、よくわからないと言っていて、さらにネットで調べていると、合羽橋に行くときありそうだといいので、昨日行ったのです。鍋一つ買うために車で行ったのですが、あそこは日曜日は駐車無料なのですね。それも知らなかったのですが、行って街をぶらぶらしているうちに、こんなものがあると言って、ガラスから陶器からいっぱい物を買ってきたのです。これは意外な発見でして、ネットではない買い方ができてしまうのですよ。要はいろいろ見ているうちに、これものすごく安いなというのが見つかって、こんなのもあってもいいんじゃないかというふうにはぼろぼろ買ってしまいました。お昼はこの場所ですてんぷらを食べて帰りましたが、こういう場所があったのだということを知りまして、ここに来ると何となく楽しいというのがわかった。おそらくそういうものが集まっているのが街の特徴なのだろうと思うのですが、そういう個性を持つとまちは良いのではないかと。

最近、私は自由が丘にも関わっていますが、逆に何も買えないのです。ここにしかないものがないのです。何でもあるのだけれども、どこにでもあるものを売っている。そこにはだんだんと人は行かなくなるのではないかと。

またアメ横への観光客があんなに多いというのは私も本当に知らなかった。データがそれを示していたので、私がいる上野公園の方も外人は多いのですが、どうもその比ではないらしいということもわかった気がします。

あと、先ほど東京国立博物館のお話をされましたが、うちの留学生は友達が来ると必ず東京国立博物館に行くのだそうです。それはなぜかという、あそこには「日本」があるということらしいのです。中には毎週のように行っているという中国からの留学生もいました。だから、外国人にとって、特に美術に興味がある人にとっては東博というのは特別な存在で、確かに常設展入場者が増えているということも何となくわかります。それは恐らく外国人の方が増えているのだろう。そんなことをいろいろお聞きしていて、私が今思っ

たことを感想のようにしゃべりました。以上です。

○座長 いろいろなキーワードが出てきます。

委員、いかがですか。

○委員 ありがとうございます。皆さんのいろいろなお話を聞いて、それぞれになるほどと思うところが多かったのですが、先ほどのお二人の委員さんが反対のことを言っているようで実は結構同じことを言っているのではないかという気もしまして、まちの機能がこれからどうなるのかという部分ですね。これは一般的に割といろいろなところで言われていることですが、長い間、消費が移動を生んできた。何かを買おうと思って人は移動するものだったのが、その時代は終わったと言われるわけです。ネット通販を含め、何かを買うためにどこかへ行くという行動はもう皆さんしなくなってしまった。そうすると、移動そのものが消費を生んでいくという、先ほどまさに委員さんがおっしゃったようなこともそれに当たると思うのですけれども、とりあえず行くと。行った上で、そこに「こんなものがあるんだ」という発見。ネットというのは能動的に何かを調べないと出てこないものですから、偶然あったものを買うというのは、まちならではの部分だと思うのです。そのためには、集積というところと経験、いわゆるコト消費と言われる部分ですが、美術館、博物館を含め、何かを見るという経験。それから、行ってみると「こんなものもあるんだ」という集積。この2つがないと、これから都市とかまちに行く意味がないと思うのです。まず行って、そこから何かにお金を落としたり財布を開くというように変わってくる。何かを買うためにどこかへ行くというまちづくりは、もうこれからは厳しいと思うのです。というか、確実にそういう時代になっていると思われまます。

これが2040年と考えると、一番大きな方向性だろうと思うのですが、それがこの粋（すい）と粋（いき）。ちょっと言葉遊びのようにも感じますが、個人的には悪くはないと思うのですが、どうそういう方向感をあらわせるのかというのが、社会学的に見た感じだと一番重要なポイントになってくるのかというイメージでいます。

でも、「粋（いき）」というのは、何回か話に出ましたけれども、「意気」ともかけているわけですね。心意気というか、庶民の精神性みたいな部分もすごく入ってくると思いますので、そこにいくと、先ほど委員さんから御指摘があった武家文化・町人文化というのは確かに今さらどうかと僕も非常に思っていましたので、英語と日本語で据わりは悪いですが、「庶民文化とハイカルチャー」みたいな感じだろうというイメージではいます。山のほうが武家文化あるいは官の文化かと言われると必ずしもそうではないと思うのです

が、少なくとも「粋（すい）」ということで、ハイカルチャー寄りであることは疑いないと思うので、それに対する「庶民文化」。これを「コモンピープルカルチャー」と呼ぶのも余りにも語呂が悪いので、今のところ英語と日本語しか思い浮かばないのですけれども、そんな感じの対比で、それがまざっている部分というのはそれでいいのかなという感じには思います。以上です。

○座長 ありがとうございます。

ほかの方からは。行政の方も今日は随分いっぱいいらっしゃるのですが、余り立場にとらわれずに、今日は上野のまちをどのように持っていくべきかという大きなビジョンの話ですので、何か御意見があればいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

上野公園の方はいいですか。こういうキャッチコピーで違和感はないですか。

○オブザーバー 今日の資料に対してというより、毎日窓から上野公園の東京文化会館と西洋美術館の間を見ておりますと、365日、大体朝の8時半くらいから、通学の人もいらっしゃいますが、夜の7時くらいまでひっきりなしに人が来ている。今日のお昼もそうなのですが、人をよけて歩かなければいけないような状態の中で、一体どこまで人に来てもらえばいいのかという数値的な目標がどこかにあると、公園管理者としては一つの指標になるのかと。と申しますのは、東京文化会館も西洋美術館も、あの間の道をあけることは多分できないと思うのです。幅員を広くすることはできないと思います。そういった中で、災害時の利用とか日常の通行とか、ほかに分散するためにも、どの程度の人が上野公園を訪れるという、何かそういったものがこのビジョンの中でも最終的に出てくると、行政としては、公園管理者としてはうれしいという率直な感想です。以上です。

○座長 ありがとうございます。

国道も走っていますが、何か感想があれば。

○オブザーバー 私はもともと生まれ育ちが神奈川の横浜の方です。その辺にいとあまり上野には来ないです。大体山手線のどこかに接続すると、そこから先には用事がない。買い物に行くにしても何にしても、手前に幾らでもまちがあるので、そこでとまってしまうのです。

今日の話聞いていて、先ほど、何となく目的はよくわからないけれども来ているという話もありましたが、最近自分が週末とかにまち歩きをやっていて思うのは、何となくふらっと行ってみたくなるところに行っているのです。目的が特にあるわけではなくて、行ったことがないから行ってみようかというのりでふらっと出かける。先ほど、行ってみて

初めて気づくメインではないところという話がありましたが、そういうものがたくさん見つかるまちには二度も三度も行こうという気になるのです。どことは言えませんが、もう別に行かなくていいかなと思うまちもあるし、何となくもうちょっと行ってみようかなというまちもある。もともと自分のルーツがあちらにあったことを考えて上野のほうを見ると、いわゆる昔の下町文化というのは多分この辺なのだろうと勝手に思っていて、何となくそういうものをふらふらと来て触れて帰ると、もう一回来ようかなと思うようなエリアなのだろうと思うのです。それが多分先ほどのビジョンにあった「粋（いき）」の部分なのかと私は勝手に感じていたのですが、多分外側の人から見たら、東京の粋（いき）、下町、そういう昔から残っているのは何かと言われると、勝手にこの辺を想像して、いいなと思って来てしまう。多分それはどこの地域にもあるのですが、地域を外から見たイメージもこういう検討をしていく中で、中の皆さんがあれこれと「俺たちはこうじゃないか」という想いを持たれるのもそれはそれでありなのですが、外から見た上野はどう見られているのかという話も、こういった話をしていく際に少し溶け込ませていくと、もしかしたらこの地域にいらっしゃる皆さんが当たり前過ぎて気づかないことに気づくきっかけにもなると思いました。

○座長 行ってみたくなる場所というのは、先ほど来おっしゃっている、何のために行くのかとか、いろいろあるにしても、結果としてはそこに行ってみたくなるということが、ある種の結論かも知れません。

他にいかがですか。

○委員 今日まちづくり部会からも基盤整備部会からも回遊性が課題ですというお話をいただいている、我々も基盤整備部会に参加していろいろ議論させていただいているのですが、どういう回遊性のニーズがあるのかということをもう少し丁寧に分析していく必要があると思っております。今日提示していただいた3-1の資料の、GPSでどこに移動しているかという立ち寄り状況の絵を見ても、公園とアメ横に行っているのはわかるのですが、ほかのエリアに行っている方がそれほど多くないというところがありまして、どういう目的のために歩行者ネットワークをつくっていく必要があるのかということも少し丁寧に検討していく必要があると感じております。

線路の上にパンダ橋という大きな自由通路がございますが、ここはほとんど人が通っていないので、その辺の活用の仕方も含めていろいろ勉強させていただきたいと思っております。

○座長 恐らく基盤整備部会のほうでいろいろとまた議論していただけたと思います。ありがとうございました。

他にいかがですか。

○オブザーバー 私は会社に入って上野に来るようになりまして、この20年間くらいほとんど毎日のように通勤で利用させていただいてまして、もともと西郷さんのあたりは映画館があったりして、徐々に変化していっているなと思っています。こうして皆さんの議論を伺いながら感じたことは、愛着はまちの風景が変わってしまうとなくなってしまうと思っています、耐震性の課題ですとかまちの課題はいろいろあるのですが、今あるものを全部壊すようなことではなくて、今あるもののベースの上に将来的につながっていくような、これまで御意見があったようなビジョンだとか将来像というものができるといいのではないかと感じた次第です。

○座長 ありがとうございました。

ほかの皆さんからはいかがでしょうか。

○委員 竹町地区町会連合会と申しまして、竹町地区というと、皆さんは上野地区という名前がつくので、多分竹町地区はわからないと思います。早く言いますと、昭和通りに多慶屋さんがございますね。そこから清洲橋通りと昭和通りを秋葉原のほうに向かって行って、千代田区の境までが竹町地区町会連合会です。ですから、ちょっと上野まで遠いということと、それから上野五丁目が竹町町会連合会になるので、ジュエリータウンに入ります。その方たちが部会のほうに入って一生懸命一緒になってやっていると思うのですが、我々は上野の山というと防災訓練で特に一生懸命行って訓練している町会でございます。特に、先ほど委員さんが言ったとおり、今、十数階建てのマンションがぼんぼん建っているのです。入ってくる方というと、ワンルームが多いものですからほとんど投資で買う方が多いということと、ファミリータイプが少ないものですから意外と居住性がないのです。それが今一番困っている状態です。

それと同時に、委員さんのところと私のところは非常にお祭りが盛んです。特に、下谷神社のお祭り。私のところは、鳥越神社の千貫神輿。お祭りが非常に盛んなものですから、大勢の方が上野にお祭りのときは集まります。お祭りというと、「粋 (いき)」という言葉を使うのです。「おっ、粋 (いき) なまちだね」と。それが私は先ほどから、「世界の粋 (すい) ・東京の粋 (いき)」という「粋 (いき)」がそれに合っているのかなとも思いました。そういったところで、上野の山とまちが一体化でつながっていくのが最終的に20

40年の将来像、これが一番我々もそのようになっていただきたいと思います。

私は今年の2月に連合会長になったものですから、まだ新しくて、1回目も出席していません。これからいろいろ勉強して、次回にはいろいろ発言していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

そのほかの方は特によろしいですか。特に御発言はありますか。

皆さんのお話を伺っていると、前よりはだいぶよくなったねという声が随分ありまして、「世界の粋（すい）・東京の粋（いき）」という、やや曖昧だけれども、杜とまちのシンボルのようなものを言いあわす言葉を探しているということだと思のですが、それがたまたま空間的には上と下の関係になっていて、中間ゾーンに駅があって、その中間ゾーンをもう少しみんなで両方からうまく使えるような形にならないのかなということが何となく、「杜を磨き、杜をひろげる」という文化の杜との連携、「まちを育て、まちをひろげる」というまちづくり部会を中心とするまちの話、最後にそれを重ね、つなげる。先ほど具体的にどのような動線をとるのかという話もありましたが、空間の話を経験整備部会でより一層具体的に検討していただくということに一応なっているわけですが、そこについてはあまり大きな御反対もなかったように思いますので、大体そういうことについて考えるのはいいのだろう。あとは、これをキャッチコピーとして世界の方にどうやってわかりやすくお伝えするのか。あるいは日本の我々あるいはほかの地域の方々に「上野って、こんなまちだよ」というのがわかってもらえるようなうまい表現ができるといいなと思います。「世界の粋（すい）・東京の粋（いき）が積み重なる」、「特別な日本 上野」みたいな感じですかね。少しユニークな感じもするし、かといってすごく奇異な感じでもなくて、行ってみたくなる、心をくすぐられるところがある、そういうまちになるといいなということだと思います。

あと、先ほど説明はなかったのですが、資料4の3ページ目の「別添2」と書いてあるところの右側に、幾つか細かな字で「取組の例」と書いてあって、これが実はこれから議論しなければいけない具体的なビジョンを実現するための施策につながってきて、これが先ほど来議論されていたビジョンと本当に合うのかという議論を繰り返してやっていただかなければいけないと思います。例えば杜のほうでは、美術館分館とか、イベント広場とか、プレゼンスペース、大空間とか、そういった言葉も出ていますし、ミュージアムショップ、オークションハウス等々。あるいは、コワーキングスペースとかサテライトキャン

パスとか、ホテル、宴会場、カフェの導入とか、エリアマネジメントの組織の法人化も書いてあります。まちのところでは、インフォメーションセンターとかアンテナショップ、さらにはウォーキングツアー、体験型のいろいろなイベント、そして歩行者空間の実験をやったらどうかとか、景観形成のルールづくりなどが書いてあります。まちと杜をつなげる場所では、それを見渡せるような視点場とか、象徴的な空間が要るのではないとか、あるいは高低差をうまく解消していくための縦動線が要るだろうとか、同時に結節点も当然要ることが書いてあって、このことを具体的に各部会でさらにもんでいただいて、次回はそういう大きなビジョンのキャッチコピーとともに、この取り組みがそれに本当に沿っているのか、あるいはそれぞれがばらばらになっていないとか、そういうことについて目配りをしていただくことが次は大変大事だと思いますので、ビジョンの大きなイメージとともに具体的な施策についても各部会でぜひ議論を重ねていただきたいと思います。

この会はそうそう集まれる会ではないので、最後に学識委員より何か御注意があればいただきたいと思います。

○副座長 今、座長から部会のほうに宿題をいただいたわけですが、それを含めて、一緒にやるわけですが、作業の進め方についての注文というかお願いみたいなことがあります。

テーマみたいなことを議論していろいろと皆さんのお話を聞くと、今のままでいいじゃん、という感じが結構するわけです。今が最高みたいなのがあって。僕もそう思うのですが、長期的に見たときにそうではないかもしれないということと、それから、基盤整備部会を預かっていると、どうしても開発っぽいものに足を踏み入れていって、それがないと成立しないという話にだんだんなっていきますので、上野が今より少し開発という感じが進んだときに、何は絶対に壊してはいけなくて、何は壊していいのかという判断が、どうも今のところまだ漠然としている気がするのです。それは物もそのような気がしますし、先ほど来出ているような事柄みたいなこともあって、それをもうちょっと丁寧というか、一応全体のテーマは「日本」とか「世界」とかすごく大仰なものがついているのですが、一個一個ある非常な重要な要素を割と丁寧に拾って、これは活かすとか残すとか。でも、全部活かすとなると「今のままでいいじゃん」になってしまうので、どの辺までだったらというか、この辺は変えてもいいとか、または先ほど来新しい動きについてやや困ったもんだというお話もありますが、それは経済活動という枠組みを踏まえてどういう誘導が可能なのかとか、もうちょっと具体的なレベルで良い・悪い・困ったもんだ、ということを議論していきたいと思っていて、多分部会ではそういうレベルで議論し、まとめたものを

委員会に上げられたらいいかなと思っていますので、作業部隊にはそんなお願いをして、一緒にやりましょうということです。

○座長 よろしくお願ひします。

部会長は学校の関係で先にお帰りになったので、両学識委員からさらに重ねて何か今後について御注文があればいただきたいと思ひます。

○委員 多分まちづくり部会のほうで話すべきことということになると思ひのですが、今、副座長がおっしゃってくださった、良い・悪い・困ったもんだ、というのは多分すごく重要なポイントで、具体的にそれをどこが良い、どこが悪いというのも当然なのですが、あちらを立てればこちらが立たずみたいなことも当然出てくると思ひます。特にまちのほうでは、土地利用の運用面というのは必ず出てくるので、そうすると特に上野の場合、ややイレギュラーなところもどうしても出てくると思ひますので、その辺のところのルールづくりといひますか、そういったところにも踏み込まざるを得ない部分が出てくると思ひます。その辺の規範形成というのもエリアマネジメントの非常に重要な部分になってくると思ひますので、もちろん大前提として、今、副座長がおっしゃってくださったように、これは困る、これは何とかというのをはっきりとして、ここは変える、ここは変えないというのをはっきりさせるということなのですが、そこでどうしても利害対立してきた場合に、「ここはこうだね」といひ皆さんが合意できるルールまでつくっておくのが多分、運用面ではこれから大事なことになるだろうと思ひます。

○座長 では、委員、お願ひします。

○委員 今ちょうど東京オリンピックの前の時期なのですが、以前の東京オリンピックのときは状況が全く違ひます。そういう意識でやらないと、以前の東京オリンピックのときはまさに高度成長期であったわけですが、今同じことをやったら絶対失敗しますから、今特徴的なのは、先ほどから言われている外国人が増えてきて、日本人は減っていつていふ時代です。そのときに、昔やったような、箱物を昔はよくつくって、箱をつくれれば埋まったのですが、今は埋まりませんから、逆に「ソフトの部分から何をつくるべきなのか」から考えていかないと必ず失敗すると思ひます。ですので、何か空間をつくれれば良いといふところからの発想ではない。そのまちをこういうふうにするためにはこういう空間が要るといふ順番でやっていかないと恐らくだめなのだろうなど。そのような考えで基盤のほうもやっていくのだろうなどと思ひます。

○座長 ありがとうございます。——はい、どうぞ。

○委員 想定人数を、基盤のほうでもまちから出してくれと言って、まちのほうでも計算したけれども余りうまくできない部分があって、それで話をしていくのも大変というところがあって、座長の御経験から、どういうふうに進んでいけばいいのかなというのがまちづくり部会ではわからない部分があるので。

○座長 具体的にどういう作業をこれからやっていくかについては両部会長ともお話をしますが、例えばこれまでいろいろかかわってきた中でお話をすると、丸の内のようなところは道路が基盤の目のようにできているまちで、はっきり言うと基盤がしっかりでき上がっているところからスタートしていった、そこではそういうまちだからこそ、あるいは、まず東京駅・皇居を含んでいる一番玄関口になりそうなまちだから、それなりのまちのしつらえが要るよねということが当然議論されました。例えば、高いビルをつくるにしても、昔のルールで31mの高さで一遍切って、そこから下がって高いものを建てようとか。何となくですが、31mのラインがずっと残るような形に今も東京駅の周辺はなっているのですが、ああいうことをやる時にも、そのようなまちの持っている特徴というのでしょうか、それがルールには当然及んでくる。

渋谷の場合には逆に、グリッドな道路ではなくて谷筋なので、みんなYの字で分かれています。これは明らかに丸の内とは違う。言い方は悪いですが、やりたい放題まではいかないまでも、丸の内ではできないことをやっていいのではないかと。もっと自由な雰囲気は渋谷らしいのではないかと。当然まちのボリューム感とかルールとかはあるのだけれども、それよりも渋谷のまちはもっと自由なのではないかという議論も出ていたのです。

今度は、ここでやる時はどうかということなのです。上はかなりそれなりの雰囲気をもちながら、という感じで来ていると思うのですが、まちはまちでちょっと違う下町の庶民文化のごちゃごちゃ感もあるところで、これがなかなか楽しいと一方で言われていて、その2つのフェーズが実は同じところにある、高さが違っているからこそ競合しないであるわけなのですが、そういう場所だと思うのです。だから、皆さんがおっしゃったように、回遊できると両方楽しめるみたいな、非常に特別なまちなのだけ。そこをどうやって皆さんに体感として、こっちに行ってみたら何かありそうだなみたいな感じで、違うものを感じられるようなしつらえをこの場所においてはやるのか。恐らくそれは、つないでいる部分の取り扱いがすごく大事なのだろうと思うのです。

大きなまちの向かっているイメージとか方向性の議論と、もう一つは、先ほどおっしゃ

った量の議論も当然やらなければいけなくて、それぞれのまちでも交通量の推計をやったり、あるいは歩行者の方がどれくらいどこを歩くのだろうかという推計も実はやっています。そんなことは余り説明しませんけれども。それによって実は、歩行者の歩く道の幅を決めてきているのです。例えば、新しくつくるデッキの幅なんかは一応そういう計算をしてやっています。

ですから、基盤整備部会でどんなふうに空間を構成していくかという議論がある程度見えてきて、しかも、このまちが、突拍子もないルールをこちらの上で多分つくることはないと思うのですが、でも、まちはまちで活性化したいという御希望があって、その中で、このくらいまでならば、という大ざっぱな数字をつくったときに何が起きるのかという検証はいつかはやらなければいけないと思うのです。それは恐らくこのまちに関して言うと、駅から出てくる方が大変多いと思うので、駅との関係においてどのように人々が動くのかということ。今でもかなり人があふれんばかりという場所もありますよね。それをよしとしないとするならば、いつか建てかえをしていただくときには下がっていただくとか、あるいはお金を払ってでもやるかとか、いろいろなことを考えなければいけない。そのようなことが具体的になればなるほど、恐らく大きなコンセプトの前にそこに皆さん目が行くので、ちょっと議論は局所的になってくるのですが、まず第一歩は同じ方向に向かって、我々はこっちに向かって必ず歩むのだ、ということについて合意しておく。それがないと、最初の局所的なところからやり出すとまとまりがなくなってしまうので、きょう2回ほどどこへ向かってやりましょうかという議論をしています。そのことがまだ少しびたっとした言葉になっていませんけれども、皆さんそれほど違和感なく今日は受けとめていただいたように思うので、このことを具体的な空間として落とししていくとどんなことができそうか、それはボリューム感として本当に耐えられるのかという検証が来年度さらに進んでいくのだろうと思います。いろいろなまちがそれぞれ違うので、同じことには多分ならないし、同じことにしないほうが良いと思うので、上野は上野らしくやれたらいいなと思います。

一応、今回も部会を2つ立ち上げてやっていただいています。基盤の部会とまちの部会があって、杜のほうは文化の杜の組織がおありだということで、そことやっていただくという形で、3つに分かれてしばらく進みますが、こういう場を通じてそれを重ね合わせて、矛盾がないかとか、変なことが起きていないかというのを確認しながら進んでいきたいと思っています。

(5) 今後の検討の進め方について

○座長 今後の進め方について簡単に、あと1分で説明をお願いできますか。

<事務局より資料5について説明>

○座長 では、各部会で御議論いただいている中身がどれくらい詰まるか、その進捗状況を見ながら、あるいは区民・都民の皆様から、情報を御提供するにつれていろいろな御意見が返ってくると思いますので、その辺の様子も見ながら、次回まとめに向かって進んでいきたいと思います。

少なくとも、もう1年はやるのですよね。ですから、次回で全ての決着をつける必要はないのですが、できれば上野の今後について、こんな方向でということについては、おおむね皆さんの御了解を得られると。方向はこっちだねと。あとはそれを具体的にどうするかという話になってきますので、第一段階が進んだかなという感じになりますので、ぜひまた御協力いただきたいと思います。

それでは、一旦ここで閉会にしますので、お返ししたいと思います。

○事務局 座長、どうもありがとうございました。

次回の策定委員会は、ただいま座長からも御指摘がありましたように、詳細は追ってまたお知らせいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

4 閉 会

○事務局 以上をもちまして第3回上野地区まちづくりビジョン策定委員会を終了いたします。

午後3時00分 閉会